

# 令和7年度 二里小学校 校内研究全体計画

## 1 研究主題

### 主体的に学ぶ授業の創造

～子どもたちが自ら課題解決に向かう姿を目指す算数科学習指導の工夫～

## 2 主題設定の理由

新学習指導要領では、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、学校教育が長年育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、資質・能力が三つの柱に整理された。三つの柱とは、「生きて働く『知識・技能』の習得」、未知の状況にも対応できる『思考・判断・表現力等』の育成、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」である。これらの資質・能力を身に付けるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から質の高い授業、学習活動を位置付けていくことが求められている。このことから、自ら学習対象や集団に働きかけ、よりよく問題を解決しながら知識を獲得し、各教科等で学ぶ意義を実感していく資質・能力を身に付けさせる本研究は意義深いと考える。

本校の児童は昨年度の全国学習状況調査及び佐賀県学習状況調査において、全国や佐賀県の平均を下回る結果（別紙参照）となっている。その理由として、児童自身が学習に対する意義が考えられない点や学びに向かう姿勢が不十分な点が考えられる。学習規律に関しては以前より、休み時間前の心構えとして「か・つ・お」の取組や、国見中校区における「立腰」の徹底を行い、児童に浸透してきている。しかしながら、話を聞く姿勢や態度、主体的に学びに向かう姿勢についてはまだまだ課題がある。

そこで今年度は、教科を算数科に焦点を当て、授業法の改善に取り組み、児童が自ら学ぶことに関心を持ち、いきいきと自ら学びに向かう授業実践を深めていく。また、ベースとなる学級経営や学習規律を検討していくことにより、更なる学力の定着・向上をめざしていく。

## 3 研究主題の考え方

「主体的な学び」「主体的に学ぶ授業」とは

- ・「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次に繋げる学び。
- ・「主体的に学ぶ授業」とは、学習内容や問題場面、解決方法等に関心を持ち、見通しをもって学習に取り組み、自らの活動を振り返って、次の学習や生活場面に活かしていく姿が見られる授業と考える。

## 4 研究の目標

算数科を中心として自ら課題解決を行う態度や学びに向かう姿勢を養う研究やその実践を通して、主体的に学ぶ児童を育成する。

## 5 研究の仮説

- (1) 児童が主体的に取り組むために、学習の意義や必要性を意識させた授業を行っていけば、進んで自分の考えを構築しようとする力が養われるであろう。
- (2) 学習の土台となる学級経営や学習規律の徹底を向上させていくことで、主体的な学びに向かう姿勢を育成することができるであろう。
- (3) 児童の家庭学習の実態や授業に関する意識調査や学力状況の調査・分析などを基にして、家庭や地域に発信・連携すると共に、学校内の学習環境整備を行えば、学力の基礎が身につくであろう。

## 6 研究の内容と方法

### ア 授業づくりと理論研究

- ・ 主体的な学びが見える授業づくりや教材研究等について理論研究を進める。
- ・ 考えを高め、広げ合う対話活動の実践を深める。
- ・ ICT等の利活用を進め、系統化を図る。

### イ 学びを支える環境作り

- ・ 既習事項や学習の成果物等の掲示、算数コーナーの設置など、校内環境を工夫する。
- ・ 学級経営等についても相談し合える環境作りを図る。
- ・ 学習規律の確立、家庭学習の習慣化を図る。

### ウ 児童の実態把握

- ・ 授業や家庭学習に関する児童の意識・実態調査を行い、授業づくりや宿題の在り方等について検討していく。
- ・ 学習状況調査等の分析を行い、成果と課題を意識した授業づくりにつなげていく。

## 7 研究の組織とその内容

### (1) 組織の内容と役割

#### ① 研究推進委員会

研究全体の方向・進め方の検討・修正をし、研究の円滑な運営を図る。

#### ② 全体会

研究内容や方法についての検討を行い、共通理解を図る。全体授業研究会を実施し、その後の授業改善や学級経営に生かす。

#### ③ 学年部会

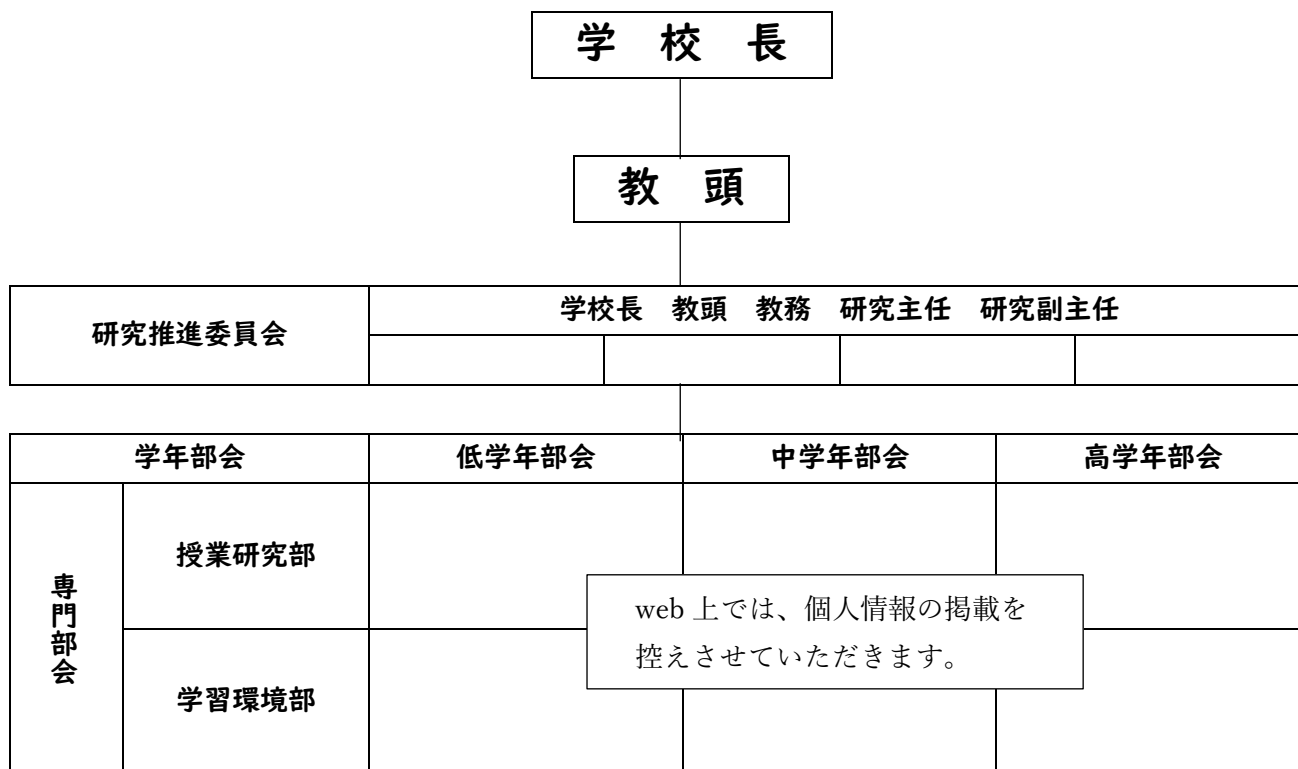
共同で教材研究をしたり、指導案の検討をしたりして授業実践を行い、研究の具体的実践を進め、研究の成果と記録と研究資料の提供等を行う。

#### ④ 専門部会

授業研究部…算数科について教材研究、および授業改善について理論研究を進め、推進を行う。  
学習環境部…校内環境の整備や学習規律、生活のきまりの共通理解、共通実践を促す。

児童や職員の意識調査の分析、考察をして研究に生かす。

## (2) 組織の構成



## 8 研究の計画

4 月	・ 研究についての概要
5 月	・ 今年度の取組について
6 月	・ 研究授業計画（授業者や日程について）
7 月	
8 月	・ 講師招聘による理論研究      ・ 学力向上に係る校内研修 ・ 専門部会による計画の実践      ・ 学年部会による教材研究や指導案検討
9 月	・ 授業研究会（G 研 全体研）（低 中 高）
10 月	・ 学年部会
11 月	・ 授業研究会（G 研 全体研）（低 中 高）
12 月	・ 学年部会
1 月	・ 授業研究会（G 研 全体研）（低 中 高）
2 月	・ 学年部会のまとめ      ・ 専門部会のまとめ
3 月	・ 今年度のまとめと来年度の方向性